

平成 29 年度（ 理科 ）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を引く教材の工夫 ・思考力、表現力の育成 ・練習問題の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での学習内容など、生徒の実態を把握し、適切な教材を用意する。 ・実験の前に予想を立てる時間を重視する。その他にも、考えさせることを重視する。 ・既習内容について、問題の形式で確認し、理解を深めるとともに問題に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場合によっては小学校の内容まで振り返って学習し直す。 ・科学的な用語の意味を理解し、使いこなせるようにしていく。 ・教科書、問題集以外の問題も扱い、様々な問題を扱う。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心を高める指導の工夫 ・科学的思考・表現を行う機会を増加 ・学習内容の反復 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での実践例や発生する事象について紹介し、現在学習している内容が身近なものであることを実感させる。 ・実験の結果やグラフなどの読み取りを行わせ、それを話し合わせて発表させる。そして文章でまとめさせる。 ・学習した内容についてワーク等を活用し、反復させて知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にその他の事象について発表させたり、それに合わせた実験を行い、理解を深めさせる。 ・同じような事例を挙げ、それについて考察させたり、類似のワークの課題を行わせる。 ・定期考査等も同様に反復を行い、自分の誤答部分の理解を深め、確実な知識の定着を図る。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める指導の工夫 ・科学の有用性への意識向上 ・個に応じた指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を通して、体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・授業の導入やまとめの時間に学習内容が日常生活でどのように応用されているかを示し、有用感を高めさせる。 ・発展的な学習、補充的な学習を進んで取り入れていく。生徒の考える時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークを用いて、個々の学習状況と学力の把握状況を確認し、補充学習を行う。 ・グループ単位での話し合いから全体への発表活動を通して、言語活動の充実を図る。 ・記述式の問題や単元の複合的な演習を通して、系統立てた学習の理解を図る。